

## 議事録

審議会名	令和5年度 第2回 杉戸町文化財審議会
開催日時	令和6年3月9日(土) 午前10時00分～12時00分
開催場所	杉戸町役場 第一庁舎3階 会議室
会議の議題	<p>議事</p> <p>① 有隣塚の修繕について</p> <p>② 日光御成街道一里塚について</p> <p>③ 町指定文化財について(諮問)</p>
公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開 (公開の場合傍聴者数 0人)
	(非公開の場合理由)
出席者氏名	柏浦勝良会長、長堀榮副会長、寺田竹雄委員、青木秀雄委員、田原昇委員、廣瀬良文委員、新井浩文委員

### 審議の概要

#### 1. 開 会 2. 議 事

##### ① 有隣塚の修繕について(事務局から報告)

有隣塚は、恭儉舎とともに大島有隣遺跡を構成する史跡であり、大島有隣の75歳を祝う寿碑。近年、寿碑を固める土砂が風雨のため流出し礎石の一部が露出した。

この状況を受け、恭儉舎保存会は、杉戸町や県文化資源課に対して、早急な修繕を要望した。杉戸町教育委員会は、杉戸町が有する文化的特色として、「心学」および、それに連なった近世思想史を重視しており、有隣塚の文化財的価値を毀損しないよう、県文化資源課や専門家と協議を重ねて修繕を実施予定。

なお、令和5年11月27日(月)には、埼玉県庁文化資源課にて有隣塚の修繕の方針について協議している。文化資源課の指摘内容は概ね以下の三点。

##### (1) 現状の把握

工事履歴の把握、「心学」の文化としての価値を再確認。

##### (2) 有隣塚の原形を調べる。

本来の形状を調べることから開始。調査結果に基づき、不自然にならない程度の修繕を目指す。

### (3) 整備基本計画

資料価値を損ねない、復旧案を策定する。なお、町としても、「整備基本計画」の内容は、今後、「文化財保存活用地域計画」のモジュールとして再利用可能な汎用性の高いものとしたい。

#### ※① 有隣塚の修繕についての報告が終了し、質疑応答に移る

(委員)

昭和37年の外柵工事の主体は恭儉舎保存会か？ それとも町か？ また、どちらが費用負担をしたのか

(事務局)

県の記録を見る限りでは連名であるが、費用負担は恭儉舎保存会である。  
今後、県の記録を詳細に確認したい。

(委員)

有隣塚の測量や発掘調査の他にも、図面の作成や金石文としての調査も重要と思われる。  
杉戸町史等に有隣塚の碑文の記載はあるか？

(事務局)

杉戸町では、金石文の悉皆調査は実施しておらず、記載がない。

(委員)

敷地内には、寿碑に関連し、当時の青年団が建立した碑や看板もあるが、今後の文化財の活用のこと、特に「文化財保存活用地域計画」の策定を考えると、その他の碑の内容も把握しておいた方が良いと思われる。

(事務局)

ご指摘の通り、三上参次が撰文した青年団の碑などもあるので、今後同時に調査していきたい。

(委員)

行政側の意見に耳を傾けてくれる保存団体は良心的である。中には、行政の意見を最初から無視し、場当たりの修繕を相談なしで実施してしまう団体もある。

(事務局)

今回、文化財的な価値を損なわない修繕をするため、恭儉舎保存会には、工事を待ってもらっている状況である。

(委員)

地震などの災害が起きた際、修繕を遅らせたことで、文化財がより大きな被害を受ける可能性もある。本格的な修繕の前に、基礎が露出した部分の応急処置は必要かもしれない。

(事務局)

検討する。

(委員)

石碑の修繕の際は、文化財の修繕に慣れている業者を選定してほしいが、情報はるか？

(事務局)

大塚の道標や、町域周辺の業者に心当たりがあるものの、情報は広くほしい。

(委員)

他自治体の事例だが、今まで修理された碑の中には、碑の下部に碑文があるのを把握せず、コンクリートで毀損してしまった例もあるので、十分気を付けてほしい。また、杉戸町堤根の九品寺の道標など、本来の置き方とは異なる置き方をされてしまったものもあるので、十分注意してほしい。

(事務局)

修理の精度と速度のバランスは難しいが、事前調査を含め、県文化課と綿密に連絡をとりながら、十分注意して進めたい。

(委員)

修繕の際に、碑そのものを、耐震補強等を実施する予定はあるか？ 東日本大震災の後、倒れた石碑や墓石は大変痛々しく、震災から10年以上経過した現在でも、倒れたままの石碑もある。これを機に耐震補強を検討したい。

(事務局)

予定はなかったが、検討したい。杉戸町内においても「大塚の道標」のように耐震補強の例があるため、参考にして進めたい。

## ② 日光御成街道一里塚について（事務局から報告）

日光御成街道一里塚は、御成道（将軍の日光社参のための道）に築かれた一里塚であり、杉戸町大字下高野に所在する。本来、白岡市下野田の一里塚のように対になっていたと思われるが、現存するのは街道を挟んで東側の塚のみで、西側の塚は失われている。

平成3年度に実施した改修工事は、一里塚を対象に、土盛りの整形工事、階段・外柵工事、芝張り工事、説明板の設置工事等、多岐に渡る大規模なものだった。加えて、元来この一里塚に松が植えられていたことに因んで、松の植栽も行われた。

大規模修理から30年以上が経過したこともあり、塚を形成する土砂の流出、松の倒木などが危惧される。そのため、松の剪定、昭和初期に建立された塚上の石碑の移設といった安全対策が必要となる。なお、石碑の移設については喫緊の課題と考えている。

## ※② 日光御成街道一里塚についての報告が終了し、質疑応答に移る

(委員)

現状、塚上の松は剪定のみか？ 伐採の検討はしていないか？

(事務局)

伐採も検討したが、今までの例を考えると町民から反対意見がありそうなので、現状は剪定を考えている。

(委員)

塚のために植樹された樹木のせいで、塚自体が損壊する例は多い。伐採も考えて良いかと思うが、地域の人の反対があるか？

(事務局)

ご指摘の通り、樹木の伐採を行うとその地域の方から反対意見が出る例が多い。一里塚に松が生えていたのは記録にあるので、現時点では松の状況を観察の上、残す方向性ではある。

(委員)

一里塚の地権者は町か？ また、植栽は平成3年であるが、松の樹齢や種類は？

(事務局)

地権者は町である。また、植栽の際は若松なので、おそらく樹齢30年程度である。また、種類は不明だが、御成街道の松とは別のものである。

(委員)

『宿村大概帳』には一里塚の様子が書かれると思うが、松の表記はあるか？

(事務局)

「榎」ではなく、「松」の表記である。平成3年の植栽は、そういった資料を反映した結果と聞き及んでいる。

(委員)

平成初期の大規模修理後、松や塚そのものの手入れを今までした例はあるか？ 一里塚が所在する下野・下高野地区は砂地なので倒木の危険性は高いと思われるが、現在の対策は？

(事務局)

大規模修理後、松や塚を委託して手入れした事例はない。現状、県担当者に写真や3Dモデルなどで、塚裏の崩れた範囲を確認してもらっており、県担当者からも塚を対象とした修繕は早い方が良く理解を得ている。なお、県指定文化財のため、修繕には現状変更届が必要である。

(委員)

塚上の石碑の内容は？ また年代は？

(事務局)

昭和2年の建立で、『史跡日光街道一里塚 高野村』と表記がある。古いものではないので、県も移転に反対はない。安全を重視してほしいとのこと。

(委員)

階段はいつ付けられたものか？ 知らない人が、一里塚に階段があると勘違いしたら困るのでは？

(事務局)

平成3年度の大規模改修の時に付け替えられたものと考えられる。改修以前から階段はあったようだ。平成3年度の大規模改修は過剰な部分もあったので、今後見直したい。

(委員)

階段を付けた時、現状変更届を出しているか？ 本来一里塚には階段があるべくもなく、そもそもないものを付けたせいで、人の昇降が盛んになり、塚の劣化が進んでいるのでは？ また、塚上の碑と階段はセットなので、階段を撤去すれば、石碑も下ろしても自然だと思われる。

(事務局)

ご指摘の通りである。本来一里塚には階段はなく、石碑もそれほど古いものでないため、いずれ階段は撤去、石碑は移設を検討したい。

(委員)

一里塚も本来、人が乗るものでないため、いずれ撤去が妥当と思われる。

(事務局)

ご指摘の通りである。この階段の撤去に関しては県文化課も賛成している。

(委員)

階段に関しては本来あったものではないが、文化財の活用という視点では何か役割を果たしたかもしれない。今後文化財を活用し保存に繋げていくという意味では、何か階段に替わる要素も必要かと思う。

(事務局)

「文化財保存活用地域計画」の件もあり、今後も、保存と活用のバランスは考えたい。

(委員)

3Dモデルをみたが、樹木の伐採や剪定を実施し、根が腐敗して塚が倒壊する危険性はないか？ またどこまでを文化財の範囲とするかは意見が分かれるところだが、塚上の石碑は下手に移設せずコンクリートで固めても、崩壊の危険性に関しては対処できるのでは？

(事務局)

ご指摘の通りである、作業には細心の注意を払いたい。また、石碑に関しては、塚の裏手に小さな公園があり、現状移設先の候補と考えている。安全面を十分に考慮した計画をたてたい。

(委員)

塚の修繕であるが、現存する下野田の一里塚（白岡市）の他、絵巻などに記録が残っているので、周辺事例を調べてから修繕に臨んでほしい。

(事務局)

十分検討する。

(委員)

今後、一里塚を文化財として保護するため、修繕の後は立ち入りに関して対策するなどしてほしい。

(事務局)

了解した。

### ③ 町指定文化財について（諮問）

#### 「目沼地区発見の盾持人埴輪の町指定文化財について」

※実際の盾持人埴輪を展示・更に 3D データを投影し「目沼地区発見の盾持人埴輪の町文化財指定について」の諮問について、審議委員に意見を求める。

現状、盾持人埴輪の出土位置を調べるための学術調査は、様々な要因でできていないことを事務局から説明する。

（委員）

指定の際には、名称は「盾持人埴輪」のままか？ また、県内での出土事例は？

（事務局）

出土事例は少なくないが、顔面がこれほど綺麗に残るものは希少である。

（委員）

発見の経緯は？

（事務局）

地域住民からの寄贈、水田（陸田）を耕作している際に発見されたものである。もとは顔部分のみの寄贈予定であったが、寄贈者が別途に保管している破片を確認したところ、接合した。

（委員）

出土位置は水田（陸田）だったと説明があったが、古墳が所在したのか？

（事務局）

おそらく、当地にはかつて古墳が所在しており、水田（陸田）耕作の際に削平されてしまったと考えられる。盾持人埴輪は、そこから箇所から出土したものと考えられる。

（委員）

町指定に関しては、急いでいるものか？ たとえば町側の予算をつけやすくするために、早く町指定にした方が良いといった思惑があるか？

（事務局）

現状、そういう意図はなく、出土位置の特定など地盤固めをしっかりとしたいと考えている。

（委員）

県文化課が文化財を観光資源として重視したこともあり、自治体は「文化財保存活用地域計画」の策定を強く求められるようになる。その際、「盾持人埴輪」は杉戸町の文化財を代表する目玉となるだろう。指定後は埴輪のオリジナルキャラクターの作成や、名称募集などのイベントも考えられる。指定にはスピードが求められるかもしれない。

（事務局）

了解した。

### 3. その他

#### エコスポ・いずみの展示室リニューアルについて

エコスポ・いずみの文化財展示室を開館してから10年近くが経過した。エコ・スポいずみ内に東京オリンピック聖火リレーを顕彰する「スポーツ・ミュージアム」ができ、文化財展示室の内容も古くなったことから、これを機に令和5年度展示室をリニューアルしたことを委員に説明した。

特に杉戸町立広島中学校の生徒と共同制作した『杉内遺跡一次調査出土の板碑』複製品は注目を集め、杉戸町および周辺地域の板碑に関しても議論が活発化した。


### 4. 閉 会

以上をもって全ての議事を終了したので、会長より閉会を宣言し解散した。  
上記の議決を確認するために、議事録署名人は、署名、捺印する。

令和 6年 3月 29日

令和5年度第二回杉戸町文化財保護審議会

議事録署名人

新井 浩文 

議事録署名人

廣瀬 良文 